

## [成果情報名]ダイズ「サチユタカA1号」の奨励品種採用

[要約]山口県において「サチユタカ A1 号」は「サチユタカ」と比較して、開花期、成熟期、精子実重、外観品質はほぼ同程度である。裂莢や収穫時の損失量が少なく、実収量が高い。県産大豆の安定生産・供給につながると判断できるため、奨励品種に採用する。

[キーワード]ダイズ、山口県、奨励品種、難裂莢性

[担当]農業技術部土地利用作物研究室

[代表連絡先]a17201@pref.yamaguchi.lg.jp

[研究所名]山口県農林総合技術センター

[分類]普及成果情報

## [背景・ねらい]

「サチユタカ」は収量・品質・加工適性に優れる品種として 2000 年度に山口県の奨励品種に採用され、県内全域で栽培されている。裂莢性が「易」であることから、立毛裂莢による収穫ロスが多く、生産現場からは莢がはじけにくい品種が求められている。「サチユタカ A1 号」は次世代作物開発研究センター（現・作物研究部門）が「サチユタカ」に難裂莢性を導入した品種であるが、山口県での特性は十分に把握できていない。そこで、奨励品種決定調査の本調査と現地調査において特性を把握し、奨励品種への採用を検討する。

## [成果の内容・特徴]

山口県における「サチユタカ A1 号」の特性は「サチユタカ」と比較して以下のとおりである。

1. 開花期、成熟期はほぼ同程度である（表 1）。
2. 主莖長は同程度で、最下着莢節位高がやや高い。精子実重や百粒重は同程度である（表 1）。
3. 倒伏程度は同程度で倒伏耐性に優れ、青立ちは同程度で少ない。障害粒および外観品質はほぼ同程度である（表 1）。
4. 粗脂肪含有率、全糖含有率は同程度だが、粗蛋白質含有率がわずかに低い（表 1）。
5. 裂莢率は成熟後日数が経過してもほとんど増加せず常に低い（図 1）。
6. 自然裂莢損失や機械収穫時損失が少なく、実収量が高い（表 2）。
7. 標高の異なる 3 地域で実施した現地調査では開花期、成熟期、精子実重および外観品質はほぼ同程度である（表 3）。現地調査担当農家による評価は栽培特性が同程度で、裂莢が少ないことから「やや有望～有望」である。

## [普及のための参考情報]

1. 普及対象：山口県内の「サチユタカ」生産者、実需者および流通業者
2. 普及予定地域・普及予定面積：約 600ha（2023 年度に「サチユタカ」から「サチユタカ A1 号」に全面切り替え）
3. その他：難裂莢性であるが、収穫が遅れた場合はしわ粒や変質粒の発生により品質が低下するので、適期収穫に努める。豆腐加工適性評価では加工性、食味、製品性ともに同程度であり、「サチユタカ」の同等品として利用可能である。産地品種銘柄に「サチユタカ群」として登録し、「サチユタカ」として流通する。

[具体的データ]

表 1 「サチユタカ A1 号」の生育、収量、倒伏程度、外観品質および子実成分

品種	開花期	成熟期	主茎長	主茎節数	分枝数	最下着莢高	精子実重	標準対比	百粒重
	月.日	月.日	cm		本/株	cm	kg/a	%	g
サチユタカA1号	8.1	11.2	51.0	14.0	4.9	13.4	37.2	100	35.9
サチユタカ	8.1	11.1	52.3	13.9	5.2	12.3	37.3	<u>100</u>	35.6

品種	倒伏程度	青立程度	障害粒			外観品質	粗蛋白質	粗脂肪	全糖
			紫斑	褐斑	裂皮				
	0-5	0-5				1-7	%	%	%
サチユタカA1号	0.0	0.3	0.0	0.7	1.0	4.7	44.9	20.0	21.4
サチユタカ	0.0	0.3	0.0	0.7	1.3	4.0	46.4	19.2	21.3

- 注 1) 試験場所は山口県農林総合技術センター内ほ場（山口市大内氷上）。試験年次は 2017 年～2019 年。  
 注 2) 播種日は 6 月 15 日。栽植密度は 11.9 株/㎡（条間 60 cm、株間 14 cm、1 株 1 本立て）。  
 注 3) 精子実重は 7.3mm で篩選し、著しい病虫害粒を除外。精子実重、百粒重は水分 15%換算（表 3 も同様）。  
 注 4) 倒伏程度、青立程度および障害粒は 0（無）～5（甚）の 6 段階。  
 注 5) 外観品質は 1（上の上）～7（下）の 7 段階で評価（表 3 も同様）。  
 注 6) 粗蛋白質、粗脂肪、全糖は子実中の含有率。分析は西日本農業研究センターにおいて近赤外分光法で実施。

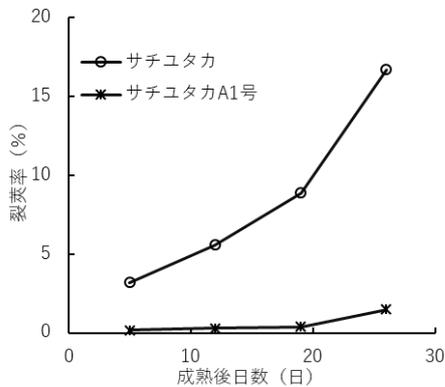


図 1 成熟後の裂莢率の推移

- 注 1) 試験場所は山口県農林総合技術センター内ほ場（山口市大内氷上）。試験年次は 2019 年。  
 注 2) 播種日は 6 月 15 日、成熟期は 10 月 28 日。  
 注 3) 裂莢率は 1 区 10 株を 3 反復調査し、裂莢数を総莢数で除して算出。

表 2 機械収穫による損失率と実収量

品種	損失率			実収量 kg/10a
	自然裂莢 %	収穫時 %	合計 %	
サチユタカA1号	0.1	4.0	4.1	194
サチユタカ	2.4	8.8	11.2	163

- 注 1) 試験場所は山口県農林総合技術センター内ほ場（山口市大内氷上）。試験年次は 2019 年。  
 注 2) 播種日は 7 月 8 日、成熟期は 10 月 30 日。  
 注 3) 調査日は 11 月 16 日（成熟期 17 日後）。  
 注 4) 1 区 1.5 ㎡の 2 地点調査。損失率はそれぞれの落下粒重量を坪刈り収量で除して算出。収穫時損失はヘッドロスと排出ロスを含めた値。実収量は坪刈り収量から落下粒重量を引いて算出。

表 3 現地調査における「サチユタカ A1 号」の生育、収量および外観品質

地域	標高	品種	播種日	開花期	成熟期	収量 kg/a	標準対比 %	外観品質 1-7
			月.日	月.日	月.日			
下関市	0m～	サチユタカA1号	6.27	8.8	11.2	33.3	92	3.1
	20m	サチユタカ	6.27	8.8	11.2	36.0	<u>100</u>	3.7
柳井市	60m～	サチユタカA1号	6.3	7.24	10.22	29.3	107	5.8
	100m	サチユタカ	6.3	7.24	10.22	27.4	<u>100</u>	6.0
阿武町	250m～	サチユタカA1号	6.1	7.28	10.31	31.7	108	4.7
	400m	サチユタカ	6.1	7.29	10.31	29.2	<u>100</u>	4.8

- 注 1) 試験年次は下関市が 2017 年～2018 年、柳井市が 2018 年～2019 年、阿武町が 2017 年～2019 年。

（陣内暉久、村田資治）

[その他]

予算区分：県単

研究期間：2017～2019 年度

研究担当者：陣内暉久、村田資治、杉田麻衣子